

詩篇81篇6-14節 「神の豊かさを見失う民」

1A 試される主 6-7

2A 口に満たされる主 8-10

3A 神に聞かない民 11-14

1B 頑ななままの心 10-12

2B 敵の虐げ 13-14

アウトライン

今年初めの礼拝になります。私たちは、元旦礼拝で実を結ぶことを新年の抱負として抱こうという話をしましたが、今朝もそのことに関連する内容です。私たちは、霊的成長に献身することを抱負としようというものです。自分の欲に陥るのではなく、不断の努力によって御霊に満たされ、自分の超えられなかった聖書通読の学びに戻りますが、午後には 79 篇から 83 篇までを読みたいと思います。今朝は、81 篇 6-14 節までに注目します。

アサフによる賛歌ですが、彼は 79 篇と 80 篇によってバビロンによってエルサレムの町が荒らされていることを嘆いています。なぜ神が、そのように神を知らぬ国々によって神殿を破壊させ、聖徒を殺させるようにさせ、そのようにいつまでも怒りを示されているのかと嘆いています。それで 81 篇においては、その嘆きと訴えに対する神の返答として読むことができます。

その返答は、かえって主が嘆いておられるものでした。「あなたが、わたしの声さえ聞いていれば、これらの災いから免れることができたのに。」という、神のやるせなさ、くやしきの声であります。助けの手を差し伸ばしているのに、その手を掴んでくれさえすればよかったのに、自分勝手な道を選んでしまった。そのために、敵に虐げられてきたのだという嘆きです。

1A 試される主 6-7

6 「わたしは、彼の肩から重荷を取り除き、彼の手を荷かごから離してやった。7 あなたは苦しみのときに、呼び求め、わたしは、あなたを助け出した。わたしは、雷の隠れ場から、あなたに答え、メリバの水のほとりで、あなたをためした。セラ

神は、親愛の思いをもって語りかけておられます。エジプトの時に彼らが奴隷として労役を受けていた時のことです。奴隷として生きていて、自由がなかったところから、彼らの重荷を取り、手を荷かごから話してくださいました。彼らは呻き、叫んでいましたが、主なる神はそれをすべて聞いてくださり、救い出してくださいました。

私たちの人生は云わば、労役を受けている奴隷のようなものです。生まれた時から今に至るま

で、自分を造られた方を知らずに生きてきたので、その罪が重しとなって自分にのしかかっています。聖書で「罪」とは、的を外すことです。自分を造られた方に拠り頼み、この方を父として仰いで生きていくことが本来の目的なのにそこから外れているので、罪に捕えられて生きてきました。そこで主が、その縄目を断ち切ってくださいました。イエス様は言われます。「マタイ 11:28-30 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」キリストが十字架で罪を取り除いてくださったので、私たちは、今度はキリストの下さる頸木を背負って生きることができています。それは重くありません、頸木は軽いと主は言われます。

そして、「わたしは、雷の隠れ場から、あなたに答え」とありますが、これはシナイ山で主が十戒を与えられた時のことです。主が彼らに聞こえるような形で語られました。さらに、「メリバの水のほとりで、あなたをためした。」とあります。イスラエルの民に、飲む水がなくなりました。荒野の旅をしていましたが、それで文句を言ったのです。主はモーセに命じて、杖で岩を打つことによって水を出されました。このことによって、「ためした」と言われます。

これは、どういうことでしょうか？ 試す、ということばを聞くと、私たちは神があたかも私たちのことを知らないから、試験をさせるのだと思ってしまいます。私たちの心を知るために、敢えて試すということをして神が行われているのではないかと。いいえ、そうではありません。私たちが自分の心を知るためです。自分が神を信じているとしても、本当に信じているのか、それを明らかにするために神が試されます。私たちはとかく、自分を過大評価します。自分は、このような課題であれば容易く乗り越えられると思っています。そこで、神は私たちがただご自分だけに拠り頼むようにするために、試練を許されるのです。自分が失敗して、いかに自分が頼りにならないかを知り、神のみに拠り頼む経験を得ることができるのです。

2A 口に満たされる主 8-10

8 聞け。わが民よ。わたしは、あなたをたしなめよう。イスラエルよ。よくわたしの言うことを聞け。9 あなたのうちに、ほかの神があってはならない。あなたは、外国の神を拝んではならない。

主は、荒野において、彼らが全く神のみに依存していることを教えられました。これは大切な経験でした。すべての源は神から来ていることを知っているからこそ、その後で主が祝福してくださるのを神からのものとして受け入れることができます。けれども、約束の地に入れば、多くの良いものに満ちています。自分が生きているのは、飽くまでも神によることを忘れて、自分たちで生きているものだど錯覚するのです。そのことを約束の地に入る前に神は、警告しておられました。その豊かさの中で主を忘れてしまうのです。(申命 6:10-13)

このように、主を忘れていくと何をしていくかという、外国の神を拝むようになります。外国の神は、人々の肉の欲望を表したものです。富を得たいなら、マモンという神がいました。セックスであれば、アシュタロテがいました。快樂ならば、ケモシュがいました。知性や権力であれば、バアルがいました。祝福されるということは、主との関係が確立していないと危険であります。主は私たちに祝福したいと願われています。私たちが命を持ち、それを豊かに持つことを願われています。そこで、その祝福を受けるために私たちが試されるのです。けれども、その中で主との関わりをしっかりと持っていなければ、その祝福がかえって自分のものであるという高ぶりになります。そして、その高ぶりが偶像に仕えさせるのです。

10 わたしが、あなたの神、主である。わたしはあなたをエジプトの地から連れ上った。あなたの口を大きくあけよ。わたしが、それを満たそう。

再び、エジプトから出た時のことを思い起こさせます。その時は、まるで巣の中にいる雛のように、親鳥の与える餌をもらおうと大きく口を与えている雛のように、すっかり主に自分の必要を満たしていただくとしていました。そして、主は事実満たして下さいます。主に必要を知っていただくように求める人には、神は惜しみなく与えて下さいます。ダビデは、「私の杯はあふれています。(詩篇 23:5)」と言いました。ヤコブは、「あなた方の中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。(1:5)」と言いました。

ここの大きく口を開けていれば、主が満たして下さるという約束は、ジョージ・ムーラーが孤児院を始めた時に与えられた御言葉でした。彼は、全くお金を持っていませんでしたが、初め 30 人の孤児であったところが、2000 人になりました。主に対して千ポンドが与えられることを願いましたが、当時は一億円ぐらいの大金です。彼は誰にもそれを相談することなく、ただ祈り求めました。資金の申し込みの受付が始まりましたが、ただの一件もありませんでした。けれども心に平安があり、祈り続けると、42 件の申し込みがあり、ついに 1000 ポンドに達したのでした。

これは彼が、主を試したものではありません。そうではなく、彼が、主が、ご自分の子たちのために惜しみなく与えられる方であることを、人格的に、個人的に、親しく知っていたからです。その交わりの中に自分を留ませたので、主が働いてくださったのです。

3A 神に聞かない民 11-14

1B 頑ななままの心 11-12

11 しかしわが民は、わたしの声を聞かず、イスラエルは、わたしに従わなかった。12 それでわたしは、彼らをかたくなな心のままに任せ、自分たちのおもんばかりのままに歩かせた。

イスラエルの民は、このように惜しみなく施される神がおられるのに、この方の名を呼び求めませんでした。そうではなく、偶像に走ってしまいました。私たちにも同じ危険があります。私たちの

心にはいろいろな必要があります。物質的な必要もあれば、社会的な必要、感情的な必要、いろいろな必要があります。それを、主ご自身が満たしてくださるという深い確信があるならば主に対して、大きく口を開けるようにして求めることができるのですが、それができないと、目の前にあるすぐにその必要を満たしてくれるものにすがりつくのです。それが、偶像であります。

主は、「聞く」という言葉を三回使われています。8 節に、「聞け」という命令、ここ 11 節には「わたしの声に聞かず」と言われ、そして 13 節に「わたしに聞き従い」と言われています。主の声を聞きさえすれば、何の災いにも遭わなかったのに、あなたがたは聞き従わなかったということです。主の言葉を聞けば、豊かな祝福があります。詩篇 1 篇で、主の教えを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ人は、「水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。(3 節)」とあります。実を結ばせる生活です。

ところが、ここで問題なのは、「自分のほうが神より賢い」と思うことです。主が命じられることは、自分の気持ちや考えていることに反する。私は、主の言われていることよりも自分の考えていることのほうを選び取る。そこにあるのは、神よりも自分が賢い、自分のほうが正しいと思っていることです。主が語られていることは、厳しすぎると感じます。そこまですたら自分が制約されて、窮屈であると考えます。実際は、自分が神に対して心を窮屈にしているのであり、神ではありません。

例えばイエス様は、「ふたりの者が一心同体になるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。(マルコ 10:8)」と言われました。それにも関わらず、数多くの人が自分の気持ちや感情を優先させて夫婦の関係を切ります。その気持ちを抑えることが、自分を抑圧しているのであり、その気持ちに正直にならないといけないと思ひこむのです。いいえ、問題は心を頑なにさせているためであり、その心が二人を引き裂こうとしているのです。このような時どんなことよりも、主の前に出ていくことを優先させて、主の命令に従うことに時間を費やすのです。

しかし、自分のしたいこと、自分の感じていることを優先させていくなら、「彼らをかたくなな心のままに任せ、自分たちのおもんばかりのままに歩かせた」と主は言われます。これは、恐ろしいことです。主がいかに警告されても、その声に聞き従わないのであれば、その欲望を行わせるままにさせます。使徒パウロが、こう言いました。「ローマ 1:24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。」ローマ社会の中で、あらゆる道徳的逸脱が広がっていましたが、その最たるものは同性愛行為でした。女が女に、男が男に、自然の用を不自然なものに代えて、情欲を燃やした結果、当然の報いを受けていると言っています。これは性病のことです。

2B 敵の虐げ 13-14

13 ああ、ただ、わが民がわたしに聞き従い、イスラエルが、わたしの道を歩いたのだったら。14 わたしはただちに、彼らの敵を征服し、彼らの仇に、わたしの手を向けたのに。」

イスラエルの民が、ただ主に振り向いて、その道を歩むのならば、周囲の国々に攻め込まれることはなかったし、エルサレムは踏み荒らされることは決してなかったのです。主は、ご自分の御名を呼び求める者は必ず助けてくださいます。ソロモンは箴言の中で教えました。「わたしの叱責に心を留めるなら、今すぐ、あなたがたにわたしの霊を注ぎ、あなたがたにわたしのことばを知らせよう。(1:23)」そのことを行わなかったので、敵に征服されてしまったのだと嘆いておられます。

使徒ペテロは、偽教師たちの教えに気をつけなさいと警告して、こう言いました。「2ペテロ 2:19 その人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。人はだれかに征服されれば、その征服者の奴隷となったのです。」自由を約束しているのですが、その欲望の奴隷となってしまうのです。そうすると、初めの状態より惨めになるとペテロは話しています。主を知っていて、罪の状態に陥るのは、知らないで罪の中にいるよりも悪い状態だと言っています。

ですから、どうか自分の正しいと思うこと、感じていることを優先させないでください。主を恐れることが知識の始め、と箴言にはあります。自分の悟りに頼らず、力を尽くして主に拠り頼みます。したがって、私たちが何かが起こって、自分には辛い、不都合だ、不快だと感じるような状況や状態にいる時は、幸いだと思ってください。「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びだと思いなさい。(ヤコブ 1:2)」その時に、ようやくただ主の御言葉だけを信じて、御言葉だけに従おうと思う清めが与えられています。もし、豊かに物が与えられているなら、それが見えなくなっていますが、無い時にこそ与えられています。ですから、主から取り扱われるということは、とても大切な体験です。ぜひそれを、キリストにあって成長する機会としてください。

今、キリスト者として喜びを感じている人と、そうでない人の違いは、ここにあるでしょう。これまで自分の失敗にしる、あるいは自分のせいではないけれども大きな試練を受けた人は、自分には何もよいものが出てこないという出発点に立つことができています。そのことに気づいていない人は、いつまでも同じところを旋回しているような、いつまでも着陸できないで、燃料が切れて落ちてしまいそうな飛行機のようになってしまいます。いつか、着陸しないとイケないのです。けれども、むりやり試練を呼び起こす必要はもちろんありません。一生懸命に作り出さなくても、主が造ってくださいます。荒野の旅を歩んでください。そこで主の豊かさを経験してください。ただ主だけが行ってくださったという経験をしてください。そして、豊かにされる時には、その体験がしっかりしていればいるほど、主を忘れることはなく、惜しみなく与えられる主を経験できます。御霊の注ぎを受けることができます。